

警察の正当性を高めるための介入は、警察に対する市民の満足感と信頼を高め、再犯を減少させる



By torbakhopper (runway ninja model with a gun)
[CC BY 2.0]

警察主導の正当な介入は、 警察の正当性に関する 市民意識にポジティブな影響 を与える

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、手続的公正ダイアログを用いた警察による公的介入の直接的・間接的な便益を検証している。このレビューでは、オーストラリア、アメリカ合衆国およびイングランドで行われた30の研究結果を要約している。参加者は、個人（一般市民、被害者、犯罪者等）、集団（例えば、地域コミュニティ）ならびに第三者（例えば、宗教指導者）である。

効果的な警察活動には、市民の自発的な協力が必要とされる。市民は、警察を正当なものとみなすとき、よりいっそう協力的になる。このレビューは、警察の正当性を高めるための介入の直接的および間接的な便益を検証している。こうした介入は、警察に対する市民の満足感と信頼を高め、再犯を減少させる。

このレビューは何を検証しているのか？

警察は、効果的に犯罪を統制し、治安を維持するためには、一般市民からの自発的な協力を必要としている。研究によれば、市民は、警察を正当なものであるとみなすとき、より警察に従い、協力するようになるとともに、法を遵守するようになる。

手続的公正は、一般市民の目から見た警察の正当性を高めるために、彼らによって用いられる一般的な方策である。手続的公正は、4つの不可欠な構成要素からなっている。それは（1）当局による決定（または発表）に至る以前の手続きへの市民参加、（2）意思決定を行う当局に対する中立性の認識、（3）やり取りの中での市民に対する尊厳と敬意の表明、（4）当局による信頼できる目的の伝達、である。

このレビューは、手続的公正ダイアログを用いた警察の公的介入の直接的および間接的な便益を検証したものである。

どのような研究が含まれているのか？

このレビューには、対照条件デザインまたは疑似実験的分割時系列デザインのいずれかを用いた警察主導の正当性介入に関する研究が含まれた。こうした研究は、犯罪率のような、警察主導の介入の開始前後における等間隔で集計的なアウトカムを測定するほかなかった。



このレビューはどのようにして更新されるのか？

このレビューの著者は、2009年4月までに公開された研究を検索した。このキャンベル系統的レビューは、2013年1月に公表された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。われわれは、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスの質を要約し、評価している。われわれの目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

このサマリーについて

このサマリーは、the Campbell Systematic Review 2013:1 Legitimacy in Policing: A Systematic Review by Lorraine Mazerolle, Sarah Bennett, Jacqueline Davis, Elise Sargeant and Matthew Manning (DOI 10.4073/csr.2013:1)に基づき、Ada Chukwudozie and Howard White (Campbell Collaboration)によって立案された。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration)は、サマリーの再デザインと編集を行った。このサマリーの制作にあたりthe American Institutes for Researchが資金援助を快諾してくれた。



レビューに含まれる研究は、以下の直接的または間接的なアウトカムのうち1つ以上を報告していた。すなわち、正当性の認識、手続の公正さ、警察への協力意欲、法令遵守、満足感、社会的つながり、警察への信頼、再犯の減少、犯罪の減少ならびに社会不安の低減である。

41の独立した評価から成る30の研究がこのレビューに含まれている。研究が焦点を当てているのは、警察が個人、集団および第三者またはそのいずれかとのようなやり取りを行っているのかである。研究は、オーストラリア、アメリカ合衆国およびイングランドにおいて実施された。

このレビューの主たる発見はどのようなものか？

とりわけ正当性の向上にねらいを定めた警察主導の介入は、警察に対する市民の満足感と信頼に有意な効果を有している。同様にこのような介入は、市民の法令遵守・協力、手続的正義（公正さ、中立性等）ならびに正当性（警察・法への服従義務）の有意な向上に関連している。さらに介入は、再犯に対して弱い効果を有していた。

このレビューの知見は何を意味するのか？

警察主導の正当性をもった介入は、市民の警察に対する正当性の認識にポジティブな影響を与えるという一貫したエビデンスがこのレビューによって示されている。

この知見によって、警察による第一線でのやりとりの内容が、警察に対する市民の満足、信頼、遵守および協力の促進にとって重要であり、また手続的正義の認識を向上させることにも重要であることが示されている。これは実務面では、警察は、手続的に公正な対話を各種の警察介入の一部として採用することを通じて、警察に対する市民の態度にポジティブな変化をもたらしうることを意味している。

国際的な文献の中には、特定の介入を切り離し、例えば安心保証のための警察活動のような種々の様式の方策を検証する無作為化実験も、多くはないがその数を増やしている。こうした研究デザインを採用することで、警察活動の正当性に関する将来の研究は、この研究の有効性に有益なものとなるかもしれない。